地元の魅力「方言について」　第三回

固有の方言を洗い出してみました。

地元での会合で方言について話をするなかで、最近はお年寄りからも”なまり”がある会話は少なくなったと言う。飯能・原市場方言を拾い出している資料”おらがほうの標準語”から方言話してみると子供のころに聞いた方言とが懐かしいと言う、

その中から、初めて聞く言葉に興味が湧き調べてみました。

・とうかんや：十日夜・亥の子祭(十月十日、田の神が去って行く日に子供達が芋柄など
　を入れて縄で固く固めた藁束で、噺しながら土を打って歩く行事。

「とうかんやとうかんや、とうかのマラ(わら)に、ひがついた、ねんじん(人参)やいて、しゃっつけろ、ごぼうやいて、しゃっけろ。」「はいご苦労さん、幾人だい、わざっとだけんど駄賃だよ。」

ウィキペディア検索：旧暦 10 月 10 日に行われる収穫祭で、「刈上げ十日」などともいわれる。一般的には、稲の収穫を感謝し翌年の豊穣を祈って、田の神に餅・ぼた餅が献じられるほか、稲刈り後の藁を束ねて藁づとや藁鉄砲を作り、地面を叩きながら唱えごとをする行事が行われる。これは、地面の神を励ますためと伝えられるが、作物にいたずらをするモグラを追い払う意味も持つ。群馬・埼玉県では、子供が藁鉄砲を持ち、集団で各家を訪れ地面をたたいて歩く。

「藁ワラ鉄砲打ちの唱えごとの一例」

とおかんや、とおかんやとおかんやの、藁でっぽう夕めし食って、ぶっ叩け

・てんじんこう：天神講(菅原道真の命日の二月二十五日に行われる祭り・子供が当番宿に集まり、習字や食事・カルタ・双六などで一日を過ごす行事。

・えも⇒芋(里芋、八つ頭)　・えんげん⇒いんげん　・おこさま⇒蚕　・かんご⇒篭
・車　⇒水車　・じゃんが・じゃが(ん)たら⇒あばた・じゃがいも　・じょうり⇒草履
・しろっこ⇒白蚕　・つるいも⇒馬鈴薯　・てんぐるま⇒手車・荷車　・ねんじん⇒人参
・ひょうなっこ⇒雛ッ子、未熟者　・まぶし⇒蚕の用具
・そね⇒尾根　・たっぺ⇒霜柱　・だんだん⇒段々、階段　・どかん⇒発破
・あかんぼ⇒老いたサッパ(ヤマベ)　・あこ、ああこ⇒魚の卵　・かじか、かじっか⇒河鹿
・がたがたばし⇒木橋、板橋　・かわよう、いを⇒川魚、魚　・くそんぼ⇒油ハヤ
・くさ、あかっぱら⇒群来、ハヤ、ウグイ　・ざこ⇒雑魚小物　・サッパ⇒ヤマベオイカワ
・頬他ろ⇒蛍　・もり⇒やす
・いったんどり⇒イタドリ　・とちらんぼ⇒栃の未、馬栗　・どどめ⇒桑の実
・けつふりおかめ⇒セキレイ　・こじっけ、ぎっちょばい⇒こじゅけい
・とてっぽ、どてっぽ⇒鳩(の鳴き声)・どば⇒土鳩　・ひっこつ⇒ヒタキ(の鳴き声)
・あかざや⇒油蝉　・おかんばか⇒カマキリ　・かなかな、ゆうけつ⇒ヒグラシ

・かがみっちょ⇒トカゲ　・けえろ、きゃある⇒蛙　・じいじい、ちいちい⇒ニイニイ蝉
・せえ(い)かち⇒かぶとむし　・なめらっくじ⇒ナメクジ　・ひっちょ⇒キリギリス
・みんみん⇒みんみん蝉
・わくさ、こぶたむし⇒亀虫、へっぴり虫：今年は、やたらとわくさが多く臭くって窓が
　あけられねえ。こぶたむしの匂いを嗅いじゃったい。

人・職業の方言を洗い出し
・あまっちょ(こ)・やろっこ⇒女性・男性　　えき ⇒息　　おぶけ ⇒産毛
・おとっちゃん・おっかちゃん　⇒父・母
・いかけや ⇒鋳掛屋（鋳物や銅・鉄製の勝手用具等を修理する職人）
・えがた ⇒鋳型・形　ぎっちょ⇒左利き・キリギリスの事も言う
・かまいたち　⇒鎌鼬（突然皮膚が裂けて切傷ができる現象・小施風の中心に真空ができ
　て、人体が接触して起こる現象と言われている）
・でえく ⇒大工　　・とこば　⇒床場・髪結床・理髪店　　・とっつぁま　⇒　主人・亭主
・まみや　⇒眉　　・ももったね　⇒太もも　　・りょうまち　⇒　リュウマチ

「小施風」を辞書で確認：　渦巻き状の風。直径 50 メートル以下で、竜巻より小規模のものをいう。　つむじ風。つじ風。

先日、地区の先輩方と昔を語る会の中で面白い話が出ました。昔からの呼び名は屋号でよんでいたとのこと、その中で「いかけや」の話が出てきたが、意味が解らず確認してみると、その家の仕事などを屋号で呼んでいた事を詳しく説明して頂いた。
先輩方からは屋号や方言を、今は話すことが少なくなくなったが、とても懐かしく楽しいとの意見がありました。地元の魅力の中で、方言について調べ始めましたが、語源のむずかしさがあり、資料”おらがほうの標準語”などから飯能及び原市場の方言について掲載していきます。
次号は住まい、暮らし、などを中心に方言洗い出しを行ってみます。

以上